

令和3年度 第5回磐田市行政経営審議会 議事録

日 時 令和3年11月11日(木) 18時30分から20時00分まで

出席者 委員12名

秋元富敏 委員、浅野真人 委員、飯田昌弘 委員、井上佳子 委員

岡本一夫 委員、杉本達男 委員、鈴木敦之 委員、砂川利広 委員

竹内育代 委員、永井新次 委員、村上勇夫 委員、鷲崎早雄 委員

事務局(企画部長、秘書政策課長、秘書政策課グループ長)

進行: 秘書政策課長

1 開 会

2 定足数の確認

3 会長あいさつ

4 議事

・計画(案)の最終確認について

・提言書(案)について

5 その他

6 閉会

■計画（案）の最終確認について

<p>委員</p>	<p>資料の41ページです。「1 新時代の新たな学校づくりを推進します」の下段です。「学府一体校や地域と一体となった特色ある学校づくりをさらに進め、～」とありますが、市も教育委員会も学府一体校を必ずしも作る、とは言っていないと思うんですね。地域の要望、意見を聞きながら、地域に合う形の小中（学府）一貫教育ということで進めていると思いますので、この「学府一体校」は少し重いのかなと。また、「主な取組み」のところに、「向陽学府一体校の推進」とありますが、市全体を考えた場合、その下の「学府の特色を生かした小中一貫教育の推進」のほうが全体を網羅している話なので、こちらを上にしていただいたほうがいいのかと、流れ的に思います。その後も、GIGAスクール構想とか、市全体・全校を中心として力を入れている順番に入れ替えたほうがいいのかと感しました。それが1点目です。</p> <p>2点目は、同じような内容になりますが、42ページの「5 体験を重視する教育を推進します」というキャリア教育の部分です。取組みの順番ですが、「ジュピロの一斉観戦」の下に「広島平和記念式典派遣」とあります。こちらは各校を代表する一部の生徒だけが対象になると思いますので、体験をする教育の中のキャリア教育ということをもっと重視して、全校にて行っている3番目のキャリア教育を上に表示してもいいのかなと感しました。以上、2点につきまして、御審議をいただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>御意見よくわかりました。記載の順番などについては、教育委員会とも、協議をさせていただいて検討させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>4ページのところです。下から2行目の「市民や企業団体等との連携により～」の部分ですが、「連携」という言葉よりも、「パートナーシップ」のほうが、SDGsらしい表現になりますし、資料5のとの整合性がとれるのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>御意見ありがとうございます。検討させていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>少し前の新聞で、民間の調査会社のブランド総合研究所が、全国のスポーツのまちのランキングを発表しました。そこで、磐田市が14年間続いた鈴鹿市を抜いて第1に輝きました。これはもちろん、これまでのプロスポーツや、オリンピックの卓球が押し上げているとは分かりますが、いずれにしてもそのまちのイメージがトップになったというのは、大きなブランド力だと思います。そこで、26ページの「ブランド力の強化とシティプロ</p>

	<p>モーションの推進」のところに、全国1位になった磐田市の魅力をさらに発展させていく旨の記述を載せ込んだら、もっと膨らむのではないかと思います。32ページの基本施策「2 スポーツ振興」のスポーツのまちづくりも関連はしますが、まず、シティプロモーションのところで生かせないかと思いました。</p> <p>それから2点目は、コロナウイルスです。これまでの議論の中で繰り返してきて、大変深刻な状態だと感じます。委員の意見によって、コロナウイルスについての記述を幾つか盛り込んでくれたので、非常にわかりやすくなったと思います。15ページの「5つの安心プロジェクト」ですが、非常に見やすく、全体像はつかみやすいのですが、この中の「4つの大きな変化への対応」のコロナ禍に関してですが、その具体的な医療のところについて、コロナという文字が出ていないので、地域包括ケアシステムに合わせて、コロナの問題について入れたほうがいいかなと思いました。</p>
事務局	<p>スポーツのまちの関係で、現状書いてある部分もありますが、記載の内容については検討させていただければと思います。それから、15ページへのコロナの関係の記載についても、検討させていただければと思います。</p>
委員	<p>せっかくのスポーツのまちの1位になったということで、ちょうど計画のスタートの年なので、5年先を見据えた振興の一つのきっかけとして何かしらの記載をしてほしいと思います。</p>
委員	<p>資料1の74ページ「分野7の指標の部分」と、資料2の「行政経営審議会における意見」の7ページで、DXの項目にマイナンバーカード普及率を加えてはどうか、という委員の提案の対応として、「見送ります」とされていますが、そこを再考していただきたいという提案になります。</p> <p>国もデジタル庁を発足し、マイナンバーカードをデジタル社会の共通機能として活用すべく、推進を図っています。磐田市も、目標数値や交付率を示すだけでも、市民の方の関心・興味が向くのではないかと思います。</p> <p>例えば、最近ではワクチンの接種率が地域別でどのように進んでいるかと比較をされたりすると思います。マイナンバーカードの普及について、いろんなポイントが付くところをフックに推進し、10万円等の給付金もマイナンバーカードが紐づいていると、スムーズに行政手続きもできるといった報道を読んだことがありますので、業務の生産性を上げるためにも「マイナンバーカードの普及」をこの指標の中に盛り込んでいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>御意見ありがとうございました。再度マイナンバーカードの件については、検討させていただきます。</p>

まず、全体の感想で意見を取り入れていただいて見やすくなったと感じます。

前回の審議会で、計画に思い切ったことを書いてもいいのではないかという意見がありましたが、4年間ですので、市民に対して磐田市の思い切った部分が幾つかあってもいいのかなと思いますし、また、今出ました日本一の話のように、旬のことをすぐ取り入れて4年後にこういう姿に持っていくとか、マイナンバーカードもそうですが、加速度的に進んでいるものは、言葉として入ることによって市民にお伝えするといった市の積極性が表れると思います。

また、資料3の「総合計画と関連する下位計画の一覧」を見ると、主立ったものは、法律などに基づいて策定しなければならないような計画や、国の交付金をもらうためのものだと思います。それはそれで絶対つukらないといけません、市の独自の戦略である総合計画ができるので、市として戦略的に4年間はこういうことをやっていくといった下位計画を検討したほうが良いと思います。

一つは、やはり観光です。観光、交流人口を拡大していくためには、3年～5年の戦略的な取組がないと出来ないというのが実際です。特にコロナの影響もありますが、市としてある程度戦略を考えておかないと、行き当たりばったりの単発の事業で終わってしまうと、今は「GoToEat」とか「GoToトラベル」でしのいでいるというのが現状だと思うので、3年後に交流人口の拡大という目標を持つのであれば、この計画に基づいた下位計画を策定していくと、より具体的に政策が打ち出されると思います。

その一環で、法律に基づいたものになりますが、自転車活用推進計画、これについては、先日も市長がナショナルサイクルルートの真ん中は磐田市だと言っていました、ナショナルサイクルルートを活用しながら、先日の三遠南信のサミットにおいても、共同決議案の中で県境を跨いだサイクリングということも、そこで決議がされているので、法律に基づく計画ではありますが自転車活用推進計画を策定して、磐田市としてこれからナショナルサイクルルートをどう活用していくかを、総合計画本体に盛り込むことが必要ではないかなと思います。

この総合計画本体そのものは、良い計画が出来ていると認識していますが、実現していくために、個別の計画がないものについては、市が独自に戦略的に策定したほうが良いのではないかと提案させていただきたいと思います。その中でも、特に観光分野については、具体的な計画がないと進んでいかないと私も経験上実感しています。それから、サイクリングについては、ある程度進めていくということがあるのであれば、それなりの戦略がないと難しいのかなとご提案を申し上げます。

委員

事務局	<p>御意見ありがとうございます。この総合計画の下位計画、個別計画もありますが、総合計画自体のアクションプランは実施計画において、毎年具体的な事業、3か年分の事業費など、そういった内容を記載し公表しています。そこで、この計画の推進に当たっていきたいと思っています。それから、観光につきましても観光ビジョンの計画も策定しているところですので、そういったものを具現化していけばいいのかなと思っています。</p> <p>それから、自転車活用推進計画の関係ですが、今後、検討していきたいと思っています。</p>
会長	<p>前期の計画を見直すと、新駅や新東名のインターとか戦略的なプロジェクトが目立っている印象で、それと対比すると後期はそういう部分はあまりありませんが、逆にSDGsを中心に置いて、安心とSDGsという意味での磐田が基本構想として、もともと持っているまちづくり構想を全面的に広げている印象を強く持っています。ですから、委員がおっしゃったような意味での戦略的なプロジェクトっていうのは、市民にとって非常にわくわくする部分もあるでしょうし、期待感も出ると思うので、この後期計画の下位計画で、そういうものが上がってくると、非常にいいと思います。</p>

■提言書（案）について

委員	<p>全体の内容については良いと思いますが、審議会からの提言なので、市がやることに対する提言だけではなく、市民に対してもある程度、責務というか、一緒にやっっていこうという言葉を入れた方がいいと思います。磐田市の魅力を高めていくためには、まずは市民が市の魅力について認識をしっかり持って、自分たちが感じないと、やはり前に進んでいけないので、市民と一緒に行政もやっっていくといった市民に対するメッセージが提言書にあってもいいと感じています。</p>
委員	<p>市民にこの計画をよく理解してもらって、一緒にやっっていく意識を醸成していくことが必要だと感じているので、市民の皆さんに対する周知を、今まではホームページや冊子をいろんなところに置いていましたが、もうちょっと市民の人に理解してもらおう取組みをしたほうがいいと思います。</p> <p>例えばですけれども、自治会連合会、各自治会、まちづくり協議会で、我々の委員がそこに出てこの話をするとか、磐田市の最上位の計画でこういう方向に向かっているんだよ、だから皆さん一緒にやろうよって、もっと盛り上げることをやるべきだと思っています。なぜかというと、例えば総合計画をつくりましたけれども、地域の人たちとかに話をしてもあまり知らない現状がありますので、その計画がうまく実行するためには市民の皆さんに理解してもらってやる必要があるので、ぜひ感じています。</p>

委員	<p>地域福祉の分野では、地域共生社会ということがよく言われます。これは、行政から一方的にサービスを受けるということではなくて、少子高齢化が進んでいるこの時代にあって、自分たちで自分たちの地域の福祉を作り上げようということで、まさしく地域と市、あるいは、関係団体と協力・協働の関係にあってパートナーシップを結びながら、進んでいくと。だけど、それぞれの中心になるのが、そこにいる住民の方たちの自らの意思だっていうことが、だんだんと明らかになってきているところです。そういうことを含めて、行政が提供する様々な施策によるサービスだけではない、ということを検討していただきたいと思います。</p>
委員	<p>仕事で危機管理の業務をやっております。危機管理の基本は自助、共助、公助なのですよね。まずは、自分は自分で守る、市民は自分のことはまず自分でしっかりやってくださいと。次は、周りの住民の方々と協力してやってくださいと。最後に公というのが、基本的な考え方になっています。それがベースにあるので、こういったものについては、行政が何をやってくれるとか、何やってほしいばかりではなくて、市民自らがこういったものを理解して、一緒にやっていくと。まさに先ほど、SDGsではないですけど、サステナブルな世界を作っていくためには、そういうふうなものもメッセージとしてあっていいと思います。</p>
会長	<p>それでは、審議会としては、例えば分野7の後に「おわりに」みたいなことで、議論をしていただいたことを、市民向けのメッセージで、「これを実行するに当たっては市民の自覚、自身が自分たちのこととして考えていきましょう」、そういうことの重要性が語られたということを書き留めるといことでよろしいでしょうか？</p>
事務局	<p>いろいろありがとうございました。今、ご提案いただきましたので最後の部分で、「おわりに」という形で、いただいたご意見を踏まえまして、まとめていきたいと思ひます。</p>
委員	<p>自治会に関わっておりますと、どうしても行政から言われたからっていう、やらされ感みたいのがまだまだ残っていると思ひます。でも、先ほど委員がおっしゃったように、防災とか、防犯につきましては、市民の協力がなければこの計画は達成しないと思ひますので、市民と一緒にやりましょうというところを強調していったほしいと思ひます。</p>
会長	<p>意見も終わったようですので、皆様に確認を取りたいと思ひます。いただいたご意見を反映した形で行政経営審議会の提言書としてよろしいでしょうか。</p>
委員 (全員)	<p>異議なし。</p>

<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、この内容で行政経営審議会の提言とさせていただきます。</p> <p>提言方法については、私と副会長の村上委員が代表して市長を訪問し、提言させていただきます。</p>
-----------	--

5 その他

<p>事務局</p>	<p>提言後の進め方につきましては、提言の内容を十分に尊重した上で、最終的な計画案を当局として調製し、2月の磐田市議会へ諮っていきます。最終的な計画につきましては、ホームページや広報誌等により公表をさせていただくとともに、委員の皆様へは、計画書の冊子が完成しましたら、ご送付させていただきます。</p> <p>加えて、本審議会の今後の予定についてご説明します。資料8『「第2期 磐田市まち・しごと創生総合戦略」の策定について』をご覧ください。</p> <p>本市では平成26年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少社会への対応に向けた5か年の目標や基本的な方向性を示した「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しております。</p> <p>この「総合戦略」についても、「総合計画」と同様、令和3年度にて計画期間が終了となることから、令和4年度からの5年間を計画期間とする「第2期総合戦略」を新たに策定する予定です。</p> <p>内容としましては、「総合戦略」は「総合計画」との関連性が極めて高いため、基本的には、「総合計画」に示した施策や指標を抜き出して策定することで、双方の整合性を図りたいと考えております。</p> <p>策定までの今後のスケジュールとしましては、12月以降に事務局が告示する計画案に対して、委員の皆様から書面にてご意見をいただき、その結果を踏まえて、計画案を修正し、来年3月までには策定したいと考えております。以上でございます。</p>
------------	---

6 閉会 審議会 終了（20：00）